

連載「書写」って、こんなにおもしろい！

提言・・・「鉛筆の持ち方」の原理

山梨大学教授 宮澤 正明
みやざわ まさあき



「鉛筆の持ち方（執筆法）」は、書写の学習の中で最も基礎となる内容です。指導に当たられる先生方も口が酸っぱくなるほど繰り返し返して指導されていることと想像いたしますが、いかがでしょうか。

しかし、先生方と児童の努力の割には、思うような成果が上がっていないのが実情ではないでしょうか。

- その原因はどのようなところにあるのでしょうか。
- 就学前、既に不適切な持ち方を身につけていることが多く、就学後の修正が困難になっているのではないかと、教科書に掲載されている「鉛筆の持ち方」のフォームを形式的に指導されているのではないかと。
 - 適切な持ち方による効果が十分理解されていないのではないかと。

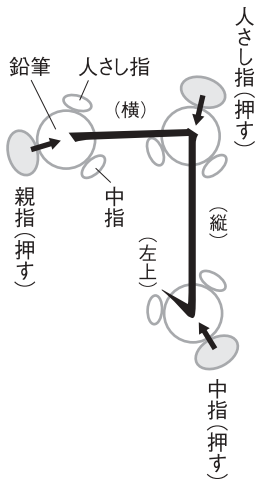
このようにさまざまな原因が考えられますが、根本的

ここでは、線の方によってそれぞれの指がどのような働きをするのかを原理的に考えてみたいと思います。

鉛筆を持つ親指、人さし指、中指には、単に鉛筆を支える働きだけではなく、次に示すように、書かれる線の方によってそれぞれが分離して異なる働きがあると考えることができます。

- 線の方に押す（推進力）
- ・・・自動車の「アクセル」に相当する働き
- 線の方をコントロールする（方向制御）
- ・・・自動車の「ハンドル」に相当する働き
- 推進力を抑える（推進力制御）
- ・・・自動車の「ブレーキ」に相当する働き

このような考えに基づくと、鉛筆の持ち方指導に説得力が生じるのではないのでしょうか。具体的な画の方向による指の働きを図に示すと次のようになります。



線の方と指の動きの関係図

原因は、鉛筆の持ち方における指の使い方の原理が十分把握されていないために学習指導を困難にしているように思えてなりません。

少し理屈っぽくなりますが、「鉛筆の適切な持ち方」を仮に定義すると

「指や手首がもつ生理的運動機能を、筆記具としての鉛筆の特性と正しい文字（点画）の書き方に合わせて、合理的に動かすことができる持ち方」と言えます。

言い換えれば、鉛筆全体をしつかり支えながら、先端をあらゆる方向に自由に動かすことができ、長時間書いていても指や手首に負担がかかりにくい持ち方となるでしょう。

では、具体的にはどうしたらよいのでしょうか。

上の関係図をアクセル、ハンドル、ブレーキの働きに置き換えて表にしてみました。

線の方	親指			中指
	横	縦	左上	
横	アクセル	ハンドル	ブレーキ	
縦	ハンドル	アクセル	ブレーキ	
左上	ブレーキ	ハンドル	アクセル	

これを活用して、

「親指の先の柔らかい部分を鉛筆に当てて押してみよう。線はどっちに引けるかな？」

「人さし指を押して縦画を書いてみよう。中指はブレーキだよ。」

「縦画のはねは、どの指で押すのかな？」

などと唱えてみてください。三本の指が自然に適切な位置に置かれはじめるはずですよ。

鉛筆の持ち方は、そのフォームだけを指導するのではなく、指の機能と線や点画の方向との関係を原理として理解させることが早道のような気がします。

鉛筆の持ち方が固定されていない低学年では特に効果的だと思われます。

